

## 【】明治維新

### 【】五箇条の御誓文

[解答 1]五箇条の御誓文

[解説]

新政府は、1868年、天皇が神に誓う形で、「**「廣ク會議ヲ興シ 万機公論に決スベシ」**」「**「智識ヲ世界ニ求メ、大ニ皇基ヲ振起スベシ」**という五箇条の御誓文を出し、外国の文化を取り入れ、世論にしたがった新しい政治を行うことを明らかにした。(人は狼狽(1868)御誓文) しかし、国民に対しては**五榜の掲示**を出して一揆やキリスト教を禁止するなど江戸幕府と変わらない政策を示した。

[解答 2] 世論を大切に政治を進めること。 外国に学んで国を発展させること。

[解答 3]明治維新

### 【】版籍奉還・廃藩置県・四民平等

[解答 4]版籍奉還

[解説]

ヨーロッパ列強の植民地支配の動きに対抗するためには、中央集権国家をつくる必要であった。しかし、徳川幕府を倒して、新政府が成

年代	おもなできごと
1868年(明治1)	五箇条の御誓文、五榜の掲示
1869年(明治2)	版籍奉還
1871年(明治4)	廃藩置県

立した後も、大名を領主とする藩はそのまま残っていたので、1869年(明治2年)、政府は**版籍奉還**を実施し、土地(版)と人民(籍)を天皇に返させた。しかし、この改革は形式的なものであり、旧藩主がそのまま藩政にあたることとしたため、政府が全国を直接治める中央集権にはほど遠いものであった。(人はむくれる(1869)版籍奉還)

そこで、1871年(明治4年)、約1万人の兵を東京に集めた上で、**廃藩置県**を断行した。これは、藩を廃して府・県をおき、中央から府知事・県令を派遣して治めさせ、もとの藩主に対しては東京に住むことを命じた。これによって、国内の政治的統一が完成し、新しい中央集権の国家ができた。(藩とはいわない(1871)県という)

\* 廃藩置県は、大名や武士の生活の基礎をうばい取ることであり、たいへんな変革であった。イギリスの領事などは、「そのようなことを行えば、大名や武士の反抗・反乱を引き起こしかねない。」と判断していたほどである。しかし、たいした混乱もなく、改革が行われた。

[解答 5]藩が支配していた土地と人民を朝廷に返させたこと。

[解答 6]廃藩置県

[解答 7]中央集権国家をつくること。

[解答 8]県令

[解答 9]ア

[解答 10]江戸時代の藩は大名がそれぞれ独自に治めていたが、廃藩置県によって置かれた府県は中央から派遣された役人が治めるようになった。

[解答 11]ア

[解答 12]ウ

[解説]

ウの第 1 回帝国議会が開かれたのは 1890 年である。

[解答 13]エ

[解説]

政府は四民平等しみにびやうどうをとнаえて、江戸時代の身分制を改めた。四民平等は、天皇のもとに国民を 1 つにまとめて近代国家作りをすすめるために必要不可欠なものであった。その結果、国民はすべて名字を名のり、職業や居住地の自由を認められた。ただし、天皇の一族を皇族、もとの公家と大名を華族かぞく、武士を士族しぞくとし、農民・町人を平民へいみんとした。また、えた、ひにんなどのよび名を廃止し、身分・職業ともに平民と同じにする解放令を出した。四民平等になって、ちょんまげをゆうことや、刀をさすことはしだいに廃止されていった。

## 【】明治維新の三大改革

[解答 14]学制

[解説]

富国強兵ふこくきやうへいをすすめるためには、まず学制、税制、兵制の三大改革をおこなうことが必要であった。1872 年に、「村に不学の家がなく、一家に不学の人がいないよう心がけなければならない。…」という学制がくせいが公布され、6 歳以上のすべての男女に小学校教育を受けさせることとした。教育費は親の負担であり、子どもは大切な働き手であったため、最初のころ、就学率は低かった。しかし、1900 年ごろには 90%をこえるまでになった。このような急速に小学校教育が広まった原因の 1 つとして、江戸時代の寺子屋てらこやにみられる教育の普及があげられる。また、東京大学をはじめとする高等教育機関もつくられ、外国人教師を招くとともに、多くの留学生が欧米へ派遣された。このような教育の普及は、日本の近代化の基礎の 1 つになった。

[解答 15] 学制 学校の授業料が負担であったため。(子どもは大切な働き手であったから。)

[解答 16]エ

[解説]

ア：学制が公布されたのは1872年(明治5年)

イ：忠君愛国の道徳を柱とする教育勅語が出されたのは、大日本帝国憲法が公布された1889年(明治22年)の翌年。

ウ：津田梅子は、1871年(明治4年)の岩倉使節団とともに出発した。

エ：義務教育期間は、最初4年で、1907年(明治40年)に6年に延長された。義務教育期間が9年になったのは太平洋戦争後である。

[解答 17]イ

[解答 18]地租改正

[解説]

国家としての機能を維持し、さらに富国強兵のための各種改革をすすめていくためには巨額の財源が必要であった。しかし、明治初期の日本は貧しい農業国であり、政府が進める改革のための財源は、主として農民が納める米であった。しかし、江戸時代と同じ方式では、収穫高と変動する米価のために収入が一定せず、予算を立てて計画的な財政支出をおこなうことができなかった。そこで、1873年(明治6年)に地租改正を行い、地価を定めて土地の所有者に地価を課税の基準を収穫高から地価に変更し、税率を地価の3%として土地の所有者に現金で納めさせた。(いやな山村(1873)地租改正) この地租改正によって政府の収入は安定した。しかし、地租は全体で江戸時代の年貢の総量と同じになるように計算されていたので農民の負担は軽くはならなかった。(富国強兵を進めるためには、歳入を削る余裕などなかった) そのため、1876年には地租改正反対一揆がおこり、地租は地価の3%から2.5%に引き下げられた。

[解答 19]国家の財政を安定させるために、税として納めるものを米から現金に変えた。

[解答 20](課税の基準は)収穫高から地価に変更され、(納めるものは)収穫物(米)から現金に変更された。

[解答 21] 地券 3

[解答 22]エ、オ

[解答 23]政府の急激な改革に対し、各地で士族の反乱や地租改正反対の農民一揆がおこった。

[解答 24]イ

[解説]

地租改正によって課税の基準が地価となったことから、正解はアと判断できる。

[解答 25]ウ

[解説]

16 銭 3 厘 = 0.163 円, 6 円 53 銭 6 厘 = 6.536 円  $0.163(\text{円}) \div 6.536 = \text{約 } 0.025 = 2.5(\%)$

明治 10 年(1877 年), 地租を地価の 3% から 2.5% に引き下げたが, この地券の日付は明治 16 年になっているので, 税率は 2.5%

[解答 26]ウ

[解答 27]イ

[解説]

国家総動員法は日中戦争が長引き軍事費が増大していた 1938 年に公布された。

[解答 28]徴兵令

[解説]

兵制については, 全国統一の近代的な軍隊をつくるため, 1873 年に徴兵令<sup>ちようへいけい</sup>を出し, 満 20 歳に達した男子は, 士族, 平民にかかわらず兵役の義務を負うこととした。(いやな山村(1873)徴兵令) しかし, これは大きな負担を強いるものであったので, 各地で徴兵反対の一揆が起こった。

[解答 29]イ

[解説]

アは誤り。「収穫高の 3%」ではなく, 「地価の 3%」を現金で納めることになった。

ウは誤り。「飛脚制度」ではなく, 「郵便制度」が整備された。

エは誤り。公家や大名を華族とし, 武士を士族とした。

## 【】文明開化

[解答 30]文明開化

[解説]

近代化をめざす政策により、欧米の文化がさかんに取り入れられ、伝統的な生活が変化し始めたが、これを文明開化とよぶ。都市ではれんが造りの洋風の建物が増え、道路には人力車や馬車が走り、ランプやガス灯がつけられた。また、洋服やコート、帽子が流行し、牛肉を食べるなど、食生活の変化も始まった。暦も 1873 年から太陽暦が採用された。

[解答 31]エ

[解説]

エは江戸時代の朝鮮の通信使。

[解答 32]イ

[解答 33] 横浜 エ

[解説]

経済の発展に欠かせない交通の整備が進められた。1872 年(明治 5 年)に新橋・横浜間に最初の鉄道が開通した。横浜は、当時、日本最大の貿易港であった。

[解答 34]福沢諭吉

[解説]

明治になって、欧米の近代思想も次々に紹介され、人間の平等と民主主義がわかりやすい形で説かれた。「天は人の上に人を造らず、人の下に人を造らずといえり。」という文章で有名な「学問のすゝめ」を書いたのは福沢諭吉である。ルソーらの民主主義思想を紹介したのは中江兆民である。これらの思想は青年たちに大きな影響を与え、やがて自由民権運動へとつながっていった。

[解答 35]文明開化

[解答 36]中江兆民

[解答 37]ルソー

## 【】岩倉使節団

[解答 38]岩倉使節団

[解説]

外交問題では、幕府からひきついだ不平等条約の改正が大きな課題であった。1871年、廃藩置県を断行した直後、岩倉具視を全権とする使節団を欧米に送った。条約改正はできなかったが、大久保利通、木戸孝允、伊藤博文など政府の主要メンバーの半数が、約2年間、欧米の進んだ政治、産業、文化を直接に体験し、国力の充実が必要であると痛感して帰国した。岩倉使節団には、約60名の留学生が加わっていたが、その中には5名の女子留学生もふくまれていた。最年少は7歳の津田梅子で、帰国後、女子英学塾(現在の津田塾大学)を設立し、女子教育の発展に貢献した。

[解答 39]A 岩倉具視 B 伊藤博文

[解答 40]岩倉具視

[解答 41]日本に関税自主権がなかったこと。

[解説]

1858年に幕府が結んだ日米修好通商条約などの通商条約は、治外法権を認め、関税自主権のない不平等な条約であった。

[解答 42](1) 日米修好通商条約 (2) 欧米の政治や産業を視察すること。

[解答 43]イギリス

[解答 44]岩倉使節団

[解答 45]津田梅子

[解答 46]西郷隆盛

## 【】富国強兵・殖産興業

[解答 47]富国強兵

[解説]

19世紀にヨーロッパ諸国はアジアへ進出し、植民地化をすすめた。なかでも、イギリスは1840年に中国の清とのアヘン戦争に勝利をおさめ、南京条約によって中国を半植民地化した。この情報は幕末当時の知識階層に大きな衝撃を与えた。日本もこのままではヨーロッパ列強の植民地になってしまうかもしれないという危機意識は、明治維新を主導した藩閥のリーダーたちに共通したものであった。こうした、危機から脱却するために、ヨーロッパ諸国を手本として、産業を発展させる(殖産興業)とともに軍備を強化する富国強兵をおすすめることが当時の最大の国家目標となった。

[解答 48]殖産興業

[解答 49]殖産興業

[解説]

明治初期の日本は、農業が中心の国家で、民間工業の発達は、江戸時代からのマニュファクチュア経営が一部に見られるという程度にとどまっております、民間資本には近代工業をおこす力はなかった。そこで、政府は、群馬県の富岡製糸場などの官営模範工場をつくったり、博覧会を開いたりして、近代産業の育成をはかろうとした。

\* 幕末以来の最大の輸出品は、生糸であったが、繭から生糸をつくる製糸工程は人力や前近代的な小規模な器具によるところが大きく、大量生産ができないだけでなく、品質の点でも劣っていた。そこで、政府は、フランス人技師の指導でフランスから繰糸機や蒸気機関等を輸入し、養蚕業のさかんな富岡に日本初の器械製糸工場を設置した。当時は世界でも有数の規模であり、数百人の工女が日本全国から集められた。工女の労働環境は充実しており、後に日本全国に建設された製糸工場に繰糸の方法を伝授する役割も果たした。

[解答 50]富岡

[解答 51]生糸

[解答 52]イ

[解答 53]官営模範工場

[解答 54]官営模範工場をつくるなどして近代産業の育成をめざした。

[解答 55]製糸業(紡績業)

[解説]

日本では日清戦争前後に蒸気動力化による製糸・紡績など軽工業部門を中心に第一次産業革命、日露戦争前後に電力による重工業部門中心の第二次産業革命が進行した。

[解答 56]生糸

[解答 57]ウ

[解答 58]横浜

[解答 59]開拓使

[解説]

北海道については、開拓使を設置して北海道の開拓を進めた。農民を移住させ、士族を屯田兵として配置した。開拓使は、札幌農学校を開き、アメリカ人の農業技術の導入を図った。

[解答 60]屯田兵

【】自由民権運動・国会開設

【】征韓論

[解答 61]X 大久保利通 Y 西郷隆盛 Z 板垣退助

[解説]

当時の政府の実力者は、貴族出身の岩倉貞視、薩摩出身の西郷隆盛、大久保利通であった。(長州の木戸孝允は、使節団から一人帰国した後は事実上引退したようになっていた。また、同じく長州の伊藤博文はまだ小物であった。) 3人の実力者のうち、岩倉・大久保が使節団をひきいて外遊している間、留守番役を引き受けたのは西郷であった。岩倉使節団が出発する前に、政府は廃藩置県を断行したが、これは武士の特権を一挙にうばいとる改革であったために、武士たちの不満をもたらした。(とくに、薩摩・長州など明治維新に功績のあった武士たちは、命をかけてつくしたのに、生活の基盤である俸禄をうばわれてしまったわけで、不満をもつのは当然であった。) この不満を一身で受け止めたのが西郷隆盛であった。西郷は、朝鮮に使節を派遣して開国をせまり、朝鮮政府がこれを拒否した場合には武力行使をも辞さないという征韓論を主張したが、これには武士たちの不満のエネルギーを外に向けて発散するねらいがあった。

これに対し、欧米視察で欧米列強の実力を肌で感じ取った大久保利通らは、ここで外征をおこす余裕などはなく、富国強兵・殖産興業の内政の整備が優先することを説き、征韓論に反対した。この政府内部の争いは、きわどいところで、大久保派が勝利をおさめ、征韓論をとなえた西郷隆盛や板垣退助(土佐藩出身)は政府から去った(明治六年の政変)。西郷らが去った後の政府の中心になった大久保利通は殖産興業をすすめるとともに、国内の支配を強めていった。政府を去った板垣退助は、翌1874年(明治7年)に民撰議院設立の建白書を提出して自由民権運動を始めた。鹿児島に帰った西郷隆盛は、後に不平士族にかつがれて、1877年(明治10年)に西南戦争をおこした。

[解答 62]大久保利通

[解答 63]板垣退助は自由民権運動を始め、西郷隆盛は西南戦争をおこした。

[解答 64]エ



## 【】明治初期の対外関係

[解答 65]不平等条約の改正を実現すること。

[解説]

政府は、鹿鳴館を建てて外国人をまねき舞踏会を開くなど条約改正の努力を続けた。1886年にイギリス船ノルマントン号が和歌山県沖で沈没し、日本人乗客全員が水死する事件が起きた。事件の審理は領事裁判権(治外法権)によってイギリス判事が行った。イギリス領事裁判所は、イギリス人船長に軽い罰をあたえただけだったため、不平等条約改正を求める世論が高まった。

[解答 66]日本国内で外国人が法を犯したときに、その国の領事が裁判を行う治外法権を撤廃すること。

[解答 67]イ

[解説]

中国の清とは、1871年(明治4年)に対等な立場で日清修好条規を結んだ。しかし、琉球の帰属問題で日本と清は対立していた。江戸時代に琉球王国は薩摩藩の支配を受けながらも、薩摩藩の指示によって清にも朝貢していた。明治になって、

年代	おもなできごと
1871年(明治4)	日清修好条規
1875年(明治8)	樺太・千島交換条約
1875年(明治8)	江華島事件
1876年(明治9)	日朝修好条規
1879年(明治12)	沖縄県設置(琉球処分)

日本は琉球王国を併合して琉球藩とした。しかし、清は琉球の領有権を主張していた。こうした中で、台湾で琉球漁民の殺害事件が起こり、日本は1874年(明治7年)に台湾出兵を行った。交渉の結果、清は日本の出兵を認め、事実上の賠償金を支払った。これは、琉球が日本に所属することを認めるもので、これで、琉球の所属に関する問題は解決した。1879年に反対する琉球の人々をおさえて、沖縄県を設置した。これらをあわせて琉球処分という。

[解答 68]清

[解答 69]樺太・千島交換条約

[解説]

1875年、ロシアとの間で、日本がウルップ島以北の千島列島を領有するかわりに、樺太をロシアに譲るという樺太・千島交換条約を結んだ。

[解答 70]江華島事件

[解説]

朝鮮との間では、1875年、日本の軍艦が朝鮮漢江河口の江華島付近で示威を行い、砲撃を受けた江華島事件をきっかけに、軍勢力を背景にして領事裁判権などをふくむ不平等な日朝修好条規を朝鮮に認めさせた。

[解答 71]b

【】土族の反乱

[解答 72]西南戦争

[解説]

藩閥政治に対する不満は、一方では自由民権運動を生んだが、他方では佐賀の乱、萩の乱などの不平土族の反乱をもたらした。その最大のものは、征韓論に敗れて鹿児島に帰った西郷隆盛が中心になっておこした西南戦争である。(西南戦争討伐なかなか(1877)難しい) 政府軍は約半年をついやしてこれを鎮圧した。これを最後に土族の反乱はおさまった。

[解答 73]西郷隆盛

[解答 74]土族

[解答 75]身分的な特権をうばわれたことへの不満

[解答 76]e

[解説]

土族の反乱の中で最大のものは西南戦争である。

【】自由民権運動

[解答 77]自由民権運動

[解説]

征韓論の議論に敗れた板垣退助は、翌1874年に民撰議院設立の建白書を提出した。さらに、高知県に帰った板垣は立志社をつくって自由民権運動を始めた。(一派なし(1874)て建白書) 板垣らは、政府の政治を専制政治であると批判し、議会を開いて国民が政治に参加できるようにすべきだと主張した。

[解答 78]板垣退助

[解答 79] 立志社 自由党

[解答 80]政府の政治を専制政治であると批判し、議会を開いて国民が政治に参加できるようにすべきだと主張した。

[解答 81]政府への武力による抵抗にかわり、言論による批判が中心となり

[解答 82]ウ

[解答 83](1) 130 年前 (2) 国会開設 (3) 自由民権運動

[解説]

西南戦争後、藩閥政治への批判は言論によるものを中心に、1880年(明治13年)には大阪で国会期成同盟が結成され、自由民権運動がもりあがった。1881年、北海道開発のために多額の国費をかけてつくった施設を薩摩出身の商人に不当に安い値段で売ろうとしたことが、国民に知れて、藩閥政府を攻撃する声がいっそうはげしくなった。政府がたおれることを心配した伊藤博文らは、憲法の即時制定と国会の早期開設を主張していた大隈重信を政府から追い出す一方、10年後に国会を開くことを約束した(国会開設の勅諭)。(明治の初期に政治の中心であった大久保利通は西南戦争の直後に暗殺されており、これ以降は伊藤博文が明治政府の中心となっていた。)

国会開設にそなえ、板垣退助は自由党を結成し、大隈重信は立憲改進黨を結成した。しかし、政府がきびしい弾圧をしたため、おりからの深刻な不況による社会不安を背景に、埼玉県でおこった秩父事件など、民権派の激化事件が起こり、民権運動は停滞した。

[解答 84]自由党

[解答 85]大隈重信

[解説]

大隈重信は、イギリス流の議会政治と立憲君主制を理想とし、立憲改進黨を結成した。板垣退助は、フランスの民権思想の影響を受け、自由党を結成した。

[解答 86]立憲改進黨

[解答 87]秩父

[解答 88]エ イ ア ウ

[解説]

エ：1874年民撰議院設立の建白書→(西南戦争)→イ：1880年国会期成同盟→(国会開設の勅諭)→ア：1881年自由党結成→ウ：1884年秩父事件

[解答 89]ア

【】憲法制定の準備

[解答 90]伊藤博文

[解説]

国会開設にそなえて政府は、伊藤博文をドイツ(プロイセン)に派遣して憲法を調査させた。ドイツの憲法を手本にしたのは、ドイツの憲法は君主権の強い憲法でわが国の実

年代	おもなできごと
1881年(明治14)	政府が国会の開設を約束する
1885年(明治18)	内閣制度がつくられる
1889年(明治22)	大日本帝国憲法が発布される
1890年(明治23)	第1回帝国議会在開かれる

情にあったからである。大日本帝国憲法は「大日本帝国八万世一系ノ天皇之ヲ統治ス」と天皇主権を定めている。1885年、それまでの太政官制にかわって、内閣制度をつくった。初代の内閣総理大臣には伊藤博文が任命された。

[解答 91]ドイツ(プロイセン)

[解答 92]ドイツ憲法は君主権が強い憲法であったため。

[解答 93]イ

[解答 94]伊藤博文

【】大日本帝国憲法

[解答 95]大日本帝国

[解説]

1889年、天皇が国民にあたえるという形で、大日本帝国憲法が発布された。大日本帝国憲法は、「第1条 大日本帝国八万世一系ノ天皇之ヲ統治ス」と天皇を主権者と定めていた。(現在の日本国憲法における主権者は国民であり、天皇は日本国の象徴と位置づけられている。)天皇のもつ主権は天皇大権といわれ、国の統治権・軍の統帥権・条約の調印権・勅令発動権など、広範囲で強い権限であった。国民は「臣民」とされ、その人権も法律の範囲内で認められたにすぎなかった。

[解答 96]天皇

[解答 97]大日本帝国憲法は天皇を主権者としているのに対し、日本国憲法は国民を主権者としている。

[解答 98]イ

[解答 99]エ

[解説]

エが誤り。帝国議会は貴族院と衆議院から成り立っていた。

[解答 100]ウ

[解説]

アは誤り。衆議院議員の選挙権は直接国税 15 円以上をおさめる 25 歳以上の男子に与えられた。

イは誤り。「参議院と衆議院」ではなく「貴族院と衆議院」。

ウは正しい。

エは誤り。天皇が主権者とされていた。

[解答 101]b

[解答 102]イ

[解説]

憲法発布の翌年には教育勅語<sup>きょういくご</sup>が出されて、忠君愛国<sup>ちゅうくんあいこく</sup>の道徳が示され、教育の柱とされるとともに、国民の精神的、道徳的なよりどころとされた。

### 【】 帝国議会の開設

[解答 103]直接国税 15 円以上を納める満 25 歳以上の男子

[解説]

1890 年に第一回帝国議会が開かれた。帝国議会は、国民の選挙で選ばれた議員で構成される衆議院<sup>しゅうぎいん</sup>と、皇族・華族<sup>こうしゅく・かふしゅく</sup>の代表と天皇が任命した者、多額納税者の代表で構成される貴族院<sup>きしゅくいん</sup>の 2 つの議院から成り立っていた。衆議院議員の選挙権は、満 25 歳以上で、直接国税 15 円以上を納める男子に限られていたため、有権者は全人口の約 1% にすぎなかった。

[解答 104]エ

[解答 105]1.1%

[解答 106]ア、衆議院

[解答 107]貴族院

[解答 108]憲法を制定し、議会を開いたこと。

[解答 109]立憲政友会

【】日清戦争・日露戦争

【】日清戦争

[解答 110](1) 日清戦争 (2) a 日本 b ロシア c 清

[解説]

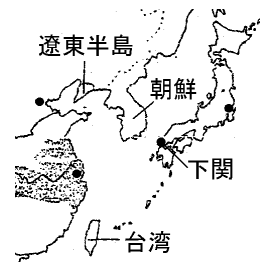
朝鮮では、日本と清が勢力争いをくり広げていた。朝鮮国内では、明治維新にならって近代化をはかろうとする親日派と、清との関係を維持しようとする親中派とが、激しく対立していた。当時、ロシアが南下政策をとりつつあり、朝鮮がロシアの手に落ちれば、やがて、日本そのものが危うくなるという危機感があった。朝鮮における清との対立が深まる中、日本は軍備の増強をはかった。図は日清戦争の風刺画である。a が日本、c が清で、水の中の魚は朝鮮である。日清戦争が朝鮮をめぐる日本と清の争いであったことを表している。橋の上から漁夫の利を得ようと機会をうかがっている b はロシアである。朝鮮では政治・経済が混乱するなかで、東学という民間宗教を信仰する農民などが、1894年、外国人排斥や政治改革をめざして兵をあげた。これを甲午農民戦争という。これを機に、清と日本は出兵し、日清戦争が始まった。(一発急襲(1894)日清戦争)

[解答 111]甲午農民戦争

[解答 112]下関条約

[解説]

日清戦争は日本の勝利に終わり、翌1895年、下関条約が結ばれた。この条約で清は、朝鮮の独立を認め、遼東半島、台湾などを日本に譲る、賠償金3億円を日本に支払うこと、などを認めた。



[解答 113]エ

[解答 114] 日清 イギリス

[解答 115]エ

[解説]

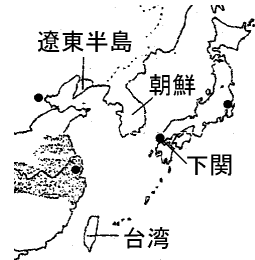
わが国は下関条約によって台湾と遼東半島を獲得したが、三国干渉により遼東半島は清に返還した。

## 【】三国干涉

[解答 116]三国干涉

[解説]

満州への進出をねらっていたロシアは、ドイツとフランスをさそって、日本に対して遼東半島を清に返すように要求してきた。これを三国干涉という。この圧力によって日本は賠償金と引き換えに遼東半島を清に返還した。その後、ロシアはこの遼東半島を清から租借した。



[解答 117]ロシア，フランス，ドイツ

[解答 118]ロシアが中心となって，遼東半島の返還を求める三国干涉を行ったため。

[解答 119]遼東半島，B

[解答 120]下関条約で獲得した遼東半島を三国干涉で返還させられたから。

[解答 121]三国干涉を受け入れた日本が，その返還勧告で中心的役割をはたしたロシアに対抗できる軍事力をもつため。

[解説]

日本は清には勝利したものの，まだ欧米列強には及ばず，国際的圧力をはね返すだけの軍事力をもつ必要があった。

[解答 122]B

## 【】日英同盟

[解答 123]義和団事件

[解説]

日清戦争で清が敗れた後，列強の中国侵略が進んだ。これに対し中国国内では排外運動がおこり，1900年に義和団が扶清滅洋を唱えて北京の列国公使館を包囲する事件が起こった。これに対し，日本やロシアを主力とする8か国の約7万人の連合軍が派遣されてようやくこれを鎮圧した。

年代	おもなできごと
1894年(明治27)	日清戦争がおこる
1895年(明治28)	下関条約が結ばれる
1900年(明治33)	義和団事件がおこる
1901年(明治34)	八幡製鉄所の開業
1902年(明治35)	日英同盟が結ばれる
1904年(明治37)	日露戦争
1905年(明治38)	ポーツマス条約が結ばれる

義和団事件後，ロシアは満州に強大な軍隊をとどめて事実上ここを占領し，朝鮮半島へ

も勢力を伸ばそうとしていた。当時の日本政府は、朝鮮半島がロシアの支配下に入ってしまうと、次は日本自体が危うくなるという危機感を持っていた。こうした、ロシアの中国への進出は、イギリスが中国にもつ<sup>けんえき</sup>權益も危うくするものであったので、イギリスは日本へ接近し、1902年に日英同盟<sup>にちえいどうめい</sup>が締結<sup>ていけつ</sup>された。

[解答 124]列強の中国分割に反発する排外運動がさかんになったため。

[解答 125]欧米列強や日本が、中国を侵略しているようすを表している。

[解答 126]ロシア

[解答 127]イギリス

[解答 128]イギリスと日英同盟を結んだ。

[解説]

図は日露戦争の風刺画である。ロシアに日本が立ち向かい、イギリスが日本を後押ししている様子が描かれている。イギリスは中国の長江流域<sup>ちやうきやうりゆう</sup>を勢力範囲にしていたが、満州をおさえ、さらに南下しようとしていたロシアに対抗するため、日本と1902年に日英同盟を結んだ。

[解答 129]イギリス

[解答 130]ロシアと日本は韓国の支配をめぐる対立していた。イギリスはロシアの南下に対抗するため日本と日英同盟を結んだ。

[解答 131]X ロシア Y フランス Z イギリス

[解答 132]イ ア ウ

## 【】日露戦争

[解答 133]与謝野晶子

[解説]

社会主義者の幸徳秋水<sup>こうとくしゅうすい</sup>、キリスト教徒の内村鑑三<sup>うちむらかんぞう</sup>、「ああ をとうとよ君を泣く・・・」という詩をよんだ与謝野晶子は戦争に反対の声をあげたが、当時のジャーナリズムは威勢のいい主戦論を書き立てていた。政府は巨大な軍力をもつロシアと戦うことには慎重で、何度もロシアと交渉を重ねた。しかし、ロシアとの間に妥協は成立せず、こうして、1904年に日露戦争が勃発した。(引くをよし(1904)で開戦決定日露戦争) 日本軍は苦戦を重ねつつも戦局を有利にすすめ、日本海海戦でも勝利をおさめた。しかし、日本の戦力は限界に達し、ロシアでも革命が起こるなど、両国とも戦争の継続が困難になった。

1905年、アメリカ大統領のセオドア・ルーズベルトの仲介によって講和会議が開かれ、



ポーツマス条約が結ばれた。この条約で、ロシアは、朝鮮における日本の優越権を認め、旅順・大連の租借権、長春以南の鉄道の利権を日本に譲る、樺太の南半分を日本に譲る、北緯 50 度以南の漁業権を日本へ譲る、ことを認めた。このときの日本の全権は外相の小村寿太郎であった。しかし、賠償金を得ることはできなかった。これに対して国民の不満が高まり、各地で講和反対集会が開かれ、東京の白比谷では焼き討ち事件が起こった。

[解答 134]ポーツマス条約

[解答 135]アメリカ

[解答 136]ア

[解説]

満州において南満州鉄道を建設した。

[解答 137]ウ

[解答 138]日露戦争の講和条約であるポーツマス条約で、ロシアから賠償金を得ることができなかったため。

[解答 139]イ

[解説]

イは日清戦争の講和条約のことを説明している。

## 【】日露戦争後のアジア

[解答 140]韓国

[解説]

日本は、日露戦争後、韓国統監府を置いて朝鮮の植民地化を進めた。初代の韓国統監になった伊藤博文が、朝鮮人の安重根に暗殺された後、1910年に韓国併合を行った。(幾十(1910)年韓国泣かせた韓国併合) 日本は、朝鮮総督府を設置して、武力を背景にした朝鮮支配をおしすすめ、学校では朝鮮史を教えることを禁じ、日本史や日本語を教えて、日本人に同化させる教育をおこなった。また、朝鮮の人々の姓名を、日本式に改めさせる創氏改名をおし進めた。

[解答 141]ア

[解説]

アが誤り。初代の韓国統監は伊藤博文である。

[解答 142]ア

[解答 143]孫文

[解説]

中国では帝国主義列強の圧迫に対抗する動きが強まり、清を倒して民族の独立と近代国家の建設をめざす運動がおこった。1911年、三民主義を唱える孫文を中心にして辛亥革命がおこり、孫文を臨時大總統とし、南京を首都とする中華民国が建国された。(辛亥の三民主義は一句いい(1911)) 孫文は、大總統の地位を袁世凱にゆずったあとも中国統一運動を続け、1919年に中国国民党をつくった。

[解答 144] 辛亥革命 中華民国

[解答 145] 孫文 韓国

[解答 146]イギリスの植民地であった。

【】条約改正：領事裁判権の撤廃

[解答 147]領事裁判権を認めていた。

[解答 148]ロシアの南下に対抗するためには日本に接近するのが得策と考えたから。

[解説]

日清戦争直前の1894年、外相陸奥宗光はイギリスと交渉して領事裁判権の撤廃に成功した。この時期に条約改正にイギリスが応じたのは、ロシアの東アジアへの進出(南下政策)に対抗するため日本と手を結ぶ政策をとるようになったからである。それと、憲法が制定され、議会も開設されてアジアで初めて立憲制国家になったことも条約改正に有利に働いた。

[解答 149]ロシア

[解答 150] ロシア 関税自主権

【】条約改正：関税自主権の回復

[解答 151] 清 領事裁判権

[解説]

日清戦争直前の1894年、外相陸奥宗光はイギリスと交渉して領事裁判権の撤廃に成功した。関税自主権の回復は、日露戦争後の1911年であった。外相小村寿太郎はアメリカと交渉して関税自主権の回復をはたした。(自主権回復ひどくい(1911))

[解答 152]関税自主権

[解答 153]ウ ア エ イ

[解答 154]ウ

[解説]

陸奥宗光<sup>むつおれみつ</sup>は日清戦争前後の時期の外務大臣で治外法権の撤廃に成功した。小村<sup>こむらじゅうたろう</sup>は日露戦争前後の時期の外務大臣で関税自主権の撤廃に成功した。

[解答 155]イ

[解答 156](1) 関税 (2) Q

[解説]

関税自主権の回復と領事裁判権の撤廃を主な内容とする不平等条約改正を実現できたのは、日露戦争後の1911年であった。

[解答 157]ア

[解説]

条約改正の完成は明治末である。アは大正時代のできごとなので条約改正とは関係がない。

【】産業・文化

【】産業革命：軽工業の発展

[解答 158]産業革命

[解説]

1880年代には政府が民間産業を育成する政策をとったこともあって、紡績<sup>ぼうせん</sup>・製糸などの軽工業が発展し日本も産業革命の時代を迎えた。

[解答 159](1)生糸 (2) 1885年には綿糸を輸入していたが、1899年には綿花を輸入し、綿糸を輸出していることから、紡績業が発達したことがわかる。

[解説]

(1) 幕末以来、生糸<sup>きいと</sup>は最大の輸出品であった。明治初期に官営模範工場<sup>かんにんいちはん</sup>として建設された富岡製糸場<sup>とみおか</sup>は、外国の機械を導入した生糸の生産工場であった。その後、輸入機械にまなんで在来技術を改良した器械製糸による小工場が、長野・山梨県などの養蚕地帯にぞくぞくと生まれ、日露戦争後には、アメリカむけを中心にさらに生糸輸出が伸び、明治末ごろには輸出規模は世界最大になった。

(2) グラフで注目すべきは綿糸である。1885年には最大の輸入品であったが、1899年

には A の生糸につぐ輸出品になっている点に注目すべきである。幕末以来の綿製品の輸入に圧迫されて、綿織物業は一時おとろえたが、原料糸に輸入綿糸を用いて農村での問屋制家内工業を中心に生産はしだいに回復していた。このような中で、輸入した紡績機械を用いた大規模な綿糸の生産工場が次々につくられ、やがて国産の綿糸が輸入品を追い出し、さらに、生糸につぐ輸出品になった。綿糸の原料である綿花はおもに輸入にたよったので、綿花は最大の輸入品となった。

[解答 160](1) 生糸 (2) 輸入した綿花を原料として、工場で綿糸を大量生産できるようになったから。

[解答 161]産業革命の進行により、綿糸の生産量が伸びて、輸出量が輸入量を上回るようになった。

[解答 162]休憩時間が短く、労働時間が長すぎることに。

[解説]

女子工員たちの労働時間は非常に長く、しかも低賃金であった。

[解答 163]繊維

### 【】産業革命：重工業の発展

[解答 164] 軽工業 重工業

[解説]

1880 年代には政府が民間産業を育成する政策をとったこともあって、紡績・製糸などの軽工業が発展し日本も産業革命の時代を迎えた。重工業では、日清戦争後に、清からの賠償金をもとに、官営の八幡製鉄所が建設され、その後、鉄鋼、電気、造船などが発達した。

[解答 165]生糸に代表される軽工業が発達し、後に、重工業が発達した。

[解答 166]八幡製鉄所

[解説]

日清戦争の賠償金を使って、1901 年に洞海湾の南側に(現在の北九州市)、官営の八幡製鉄所がつくられた。ここに製鉄所が設けられたのは、近くに筑豊地方の石炭(筑豊炭田)や石灰石の産地があったこと、鉄鉱石の輸入先であった中国に近かったことによる。



[解答 167]エ

[解答 168]石炭

[解答 169]ア，エ

[解答 170]ア

[解答 171]イ

[解答 172]C

[解答 173]造船業

[解答 174]財閥

[解説]

産業の発展の中で三井，三菱，住友，安田の資本家は，金融・貿易・鉱山業などの多角経営を行って，日本経済を支配する財閥に成長していった。

[解答 175]田中正造

[解説]

鉱工業がさかんになると，排水や煙による被害も出るようになった。栃木県の足尾銅山では鉱毒が農産物などに被害を与え，田中正造を中心にした公害反対運動が起こった。

[解答 176]足尾銅山

[解答 177]ウ

## 【】明治時代の文化

[解答 178]夏目漱石

[解説](明治時代の文学)

夏目漱石：「吾輩は猫である」「坊ちゃん」「三四郎」：個人主義の立場から社会を厳しくとらえた。

森鷗外：「舞姫」：ドイツに留学して医学を学んだ。

島崎藤村：「破戒」「若菜集」

樋口一葉：「にごりえ」「たけくらべ」

与謝野晶子：「みだれ髪」：「君死にたまふことなかれ」など多くの名作を残した。

石川啄木：「一握の砂」：社会を見つめ生活をうたった和歌を作った。

正岡子規：俳句の近代化につとめた。

[解答 179]森鷗外

[解答 180]樋口一葉

[解答 181]A : イ , c B : ウ , a C : オ , e D : エ , b

[解答 182]イ

[解答 183]フェノロサ

[解説]

岡倉天心とアメリカ人フェノロサとは日本画を復興させた。洋画では「読書」を描いた黒田清輝が有名である。音楽では、「荒城の月」などを作曲した滝廉太郎が有名である。

[解答 184]黒田清輝

[解答 185]野口英世

[解説]

(明治時代の医学)

北里柴三郎：細菌学で破傷風血清療法はしやうふうけつせいりようほうの発見など、世界的な研究を成し遂げた。

野口英世：黄熱病わうねつびょうの研究を行った。

志賀潔：赤痢菌せきりきんを発見した。

[解答 186]北里柴三郎

[解答 187]ウ

[解説]

ラジオ放送の開始は大正時代である。